



ダイバーシティ・スーパーグローバル 教員育成研修 (SENTAN-Q)

令和8年度研修生（8期生） 実施要領

男女共同参画推進室作成

研修の目的

- 本研修では、優れた研究業績を有する将来有望な本学女性並びに若手教員に対し、世界トップレベルの研究教育力を実践的に身につけさせることで、世界と伍して戦える真に実力のあるダイバーシティ・スーパーグローバル教員として育成することを目的とする。
- 具体的には、2-3年以内に上位職あるいは管理職に登用することが見込まれる部局推薦の優秀な女性並びに若手教員の中から、透明性の高い全学の審査会を経て研修生を選出し、原則2年間のダイバーシティ・スーパーグローバル研修を施し、目標レベルに到達した教員には認定書を与え、原則1年以内にテニユアの付与あるいは1段階の内部昇任を行うものである。
- 研修を通じて、国際通用性のある研究教育スキルが身につくとともに、将来上位職となった後に必要とされる幅広い知識の習得、男性女性ならびに文系理系教員の垣根を超えた学内ネットワークの形成、認定書付与による無意識のバイアスの排除が期待される。

研修の内容

- 本研修は、STEP1～STEP6で構成される
 - STEP1 研修生の選出
 - STEP2 大学ガバナンス、ダイバーシティ・インクルーシブ教育（国内研修）
 - STEP3 英語でのアクティブラーニング型教授法教育（国内研修）
 - STEP4 留学生への実践的研究指導（国内研修）
 - STEP5 最新学問分野等のリカレント教育（国内研修）
 - STEP6 最終試験：海外での実践的教育・研究指導（海外研修）
- 研修期間：各研修生につき原則2年 ただしライフイベントによっては延長可能とする
- 令和元年（1期生）より令和6年（6期生）まではJST事業として実施し、令和7年（7期生）からは本学の自主事業として実施
- STEP1～STEP6の修了認定がなされた教員には、総長より「認定書」が与えられ、修了から原則1年以内にテニユアトラック教員にはテニユア付与、テニユア教員には1段階の内部昇任が与えられる
- 本研修は、「総合知で社会変革を牽引する大学」を目指す本学が、多様性を確保しつつ、世界と伍する研究教育力を有する人材を育成する上で中核となる事業として、全学協力体制のもと遂行する。

研修の詳細(1/6)

STEP1 研修生の選出

透明性の高い全学審査会により、部局推薦者の中から候補者を選出する

- 応募資格者：次のいずれかに該当する女性又は研修初年度における年度末年齢が37歳以下の男性の准教授、講師及び助教（ただし、教授への昇任が見込まれる准教授については、研修初年度における年度末年齢が40歳以下の者）。
 - ①部局ポイントで雇用されている者
 - ②期間を定めて雇用されている者のうち、テニユア審査が予定されている者
- 応募期間：令和8(2026)年4月6日（月）～令和8(2026)年6月30日（火）
- 応募書類：様式1～4
- 全学審査会（ヒアリング）日時：令和8(2026)年9月中旬（予定）
場所：九大伊都キャンパス（詳細は後日連絡）
- 選考基準
 - ①十分な研究業績があること ②学生とともに教員も学ぶという九州大学の理念に賛同し、大学や社会を取り巻く新たな問題に対して積極的に学ぶ姿勢を有すること ③海外研修を含む国際的な研究・教育指導スキル向上に意欲的であること
- 審査会メンバー：総長、大学役員、高等研究院特別主幹教授、外部有識者等から10名程度
- ヒアリング言語：英語及び日本語
- 審査時、審査委員に無意識のバイアスチェックシートを配布
- 採択人数（予定）：5名程度/年 原則として男女比1:1 文理融合クラス編成
- 採択者決定：令和8(2026)年9月中旬（予定）
- 採択者に対する研修のオリエンテーション：令和8(2026)年9月下旬（予定）
- 8期生研修開始：令和8(2026)年10月1日（木）

研修の詳細 (2/6)

STEP2 大学ガバナンス、ダイバーシティ・インクルーシブ教育 (国内研修)

目的 大学のあり方、社会における多様性・包摂生の重要性について、世界トップ大学の講師から学ぶ (必修科目)

ダイバーシティ・インクルーシブ教育

- 研修時期：研修1年目に実質1日の集中講義を1-2回開催
- 研修開催場所：九州大学あるいは福岡市内 (状況によってはオンラインで実施)
- 社会における多様性の重要性について学ぶとともに、インクルーシブの概念から生まれた様々なイノベーション事例について学習し、自身の研究に活かす。
- 講師は海外から招聘した有識者

大学ガバナンス

- 研修時期：研修1年目に実質1日の集中講義を1-2回開催
- 研修開催場所：九州大学あるいは福岡市内 (状況によってはオンラインで実施)
- 広く長期的視点に立った大学としてのあるべき姿、大学マネジメント等について、世界トップレベル大学講師 (副学長クラス) から講義を受ける

研修の詳細 (3/6)

STEP3 英語でのアクティブラーニング型教授法教育 (国内研修)

目的 世界トップレベルの研究機関からアクティブラーニング教授法について最新の情報を持つ講師から学ぶ (必修科目)

- 研修時期：研修1年目に2-3日程度の集中講義を1回開催
- 研修開催場所：九州大学あるいは福岡市内 (状況によってはオンラインで実施)
- 授業は全て英語にて実施 参加体験型授業
- 講師は海外から招聘した専門家または専門職員

研修の詳細（4/6）

STEP4 留学生への実践的研究指導（国内研修）

目的 世界トップレベル研究者をメンターとし、英語での研究指導法を実践で学ぶ

- 研修時期：令和8(2026)年10月開始で1年間
- 研修開催場所：研修生研究実施場所
- 留学生（最大2名）に対して、研究テーマ設定～英語での研究指導～論文執筆までを海外研究者メンターのもと実施する
- 海外メンターは、原則として世界大学ランキングのトップ100に入る大学、九州大学の提携校、それぞれの専門分野で著名な大学・学科に所属する研究者とする。
- 留学生及び海外メンターの選定は、原則として研修生自身が行う
- 海外とのコミュニケーションには、Web会議システムが利用可能（令和元年度に備品として複数人での会議が可能なシステムを男女共同参画推進室内に設置、端末の貸し出しもあり）

研修の詳細 (5/6)

STEP5 最新学問分野等のリカレント教育 (国内研修)

目的 AIやIoTなど最新データサイエンス、SDGs関連科目等、九州大学の研究教育重点課題等の中から自分の専門外の分野を選択しリカレント教育を受けることで、周辺分野の視野を広げ、学際分野設立や拠点形成、予算要求など、上位職登用後の活躍の可能性を広げる。

- 研修時期：令和8(2026)年10月～令和9(2027)年9月の間に選択必修科目として2科目以上受講
- 実施場所：九州大学 各キャンパス
- 講師は原則九州大学学内教員とするが、研修生の希望によっては学外講師を招聘
- 文系教員は理系科目、理系教員は文系科目など、専門外の分野の受講を基本とする
産学連携やアントレプレナーシップなど研究アクティビティの向上に関する講習についても受講科目に加える
- このSTEP5の受講はSTEP6の海外研修の後でも良い
- 講義は英語または日本語でアクティブラーニング方式で実施

研修の詳細 (6/6)

STEP6 最終試験：海外での実践的教育・研究指導（海外研修）

目的 SENTAN-Qの最終試験としての海外研修。これにより国際的に通用する研究教育スキルを身につけたかどうかを判定する。

- 研修時期：令和9(2027)年10月～令和10(2028)年9月の間に、原則8週間以上
- 実施場所：海外研究教育機関（原則協定校とするが、それ以外のトップ大学であっても良い）
- STEP6にはSTEP2～STEP4のプログラムを修了できた研修生だけが参加できる。
- 海外研究教育機関での英語による専門科目の講義。授業実施が難しい場合は、海外複数大学でのチュートリアル講義で代行することができる。
- 海外研究教育機関での英語による学生指導。海外トップ教員をメンターとし、STEP4と同様、PIとして国際共著論文作成までを実施する。
- 研修先並びにメンターの選定は原則として研修生自身が行う。
- 海外派遣に関わる経費はSENTAN-Qプログラムが負担する。

研修到達度の評価方法

STEP2, STEP3 , STEP5

- ルーブリック表などを使った研修の目標達成度の定量評価は、原則として担当講師に委ねる
- この際、研修生による「自己評価」も合わせて行い、研究内容の適性度について次年度のプログラムにフィードバックする。

STEP4, STEP6

- 国際的に通用する研究教育スキルを身につけたかどうかの判定は、国際共著論文の達成度等を含めて、メンターである海外トップ教員が行う。

**最終的な研修修了の認定（原則2年間の実施期間後）は、
審査会の下に置く実施委員会の審議を経て、総長が決定する**

追記

- 本研修は、女性並びに若手教員が、世界トップレベルの海外講師に直接指導を受け、自身の研究教育力を厳しく評価され、それをパスする経験をすることで、世界を舞台に他国の研究者と渡り合う自信を身につけることを目的とするもので、単に女性並びに若手教員の上位職数を増やすことが目的ではない。
- 世界の研究をリードする多様で秀逸な女性並びに若手人材を発掘し、育て、世界に向けてその実力を大きくアピールすることが最終目標である。
- 研修生は、この研修の趣旨を理解し、この研修の機会を最大限に活用して、自身の学びと目標達成に向けて努力してほしい。